

あいご



No. 83

令和4年度

鹿児島市あいご会連合会



西村連合会会長

あ い ご 会

市 民 憲 章

わたしたち鹿児島市民は、みんな助け合って子どもたちの幸福を守りましょう。



愛護会

発 足（昭和36年5月5日）〈H22年度、発足50周年記念大会開催〉



あ い ご 会 宣 言

- ① 子どものしあわせを願うのは、自然の親心である。
- ② 隣近所仲良く助け合うのは、市民生活の根本である。
- ③ 次代をになう子どもたちを健全に育てるのは、市民の連帯責任である。



あ い ご 会

と改称

あ い ご 会 と は

- ① 全市民がすすんで協力し、心身ともに健全な子どもを育てる組織である。
- ② 子ども会の育成母体である。

21世紀をになう心身ともに健全な青少年を育てる

市民総ぐるみの育成組織

あ い ご 会（鹿児島市民全員）

○ 町内会と連携した青少年の健全育成

- ・ あいさつ
- ・ 声かけ運動
- ・ 交流活動
- ・ 伝統行事継承
- ・ 地域清掃
- ・ 環境浄化等

○ 子ども会の育成

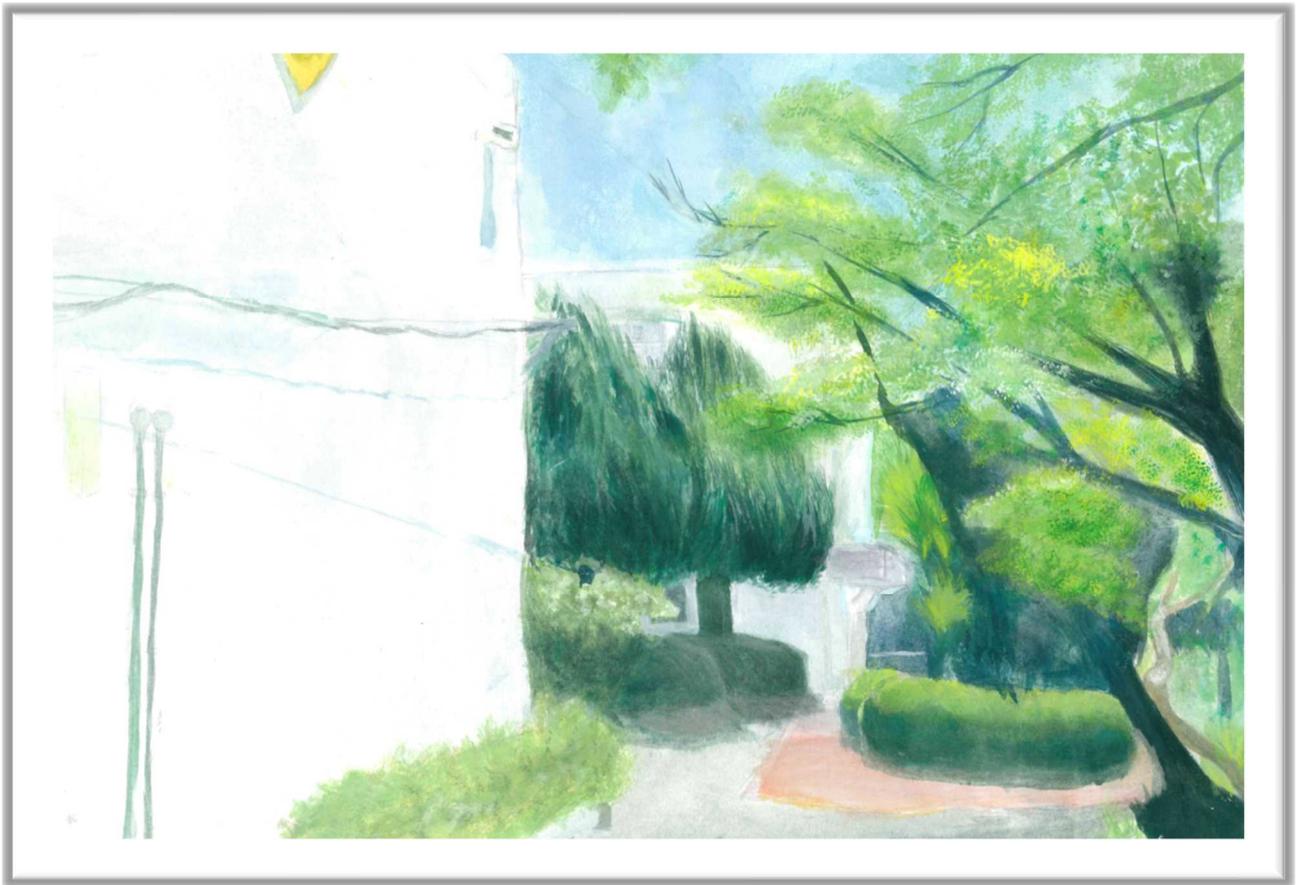
- ・ 豊かな体験活動の場や機会の提供
（地域の歴史や伝統、自然や人材の活用）

あ い ご 子 ど も 会

○ 子どもによる子どものための活動

- ・ 話し合い活動
- ・ スポーツ活動
- ・ レクリエーション活動
- ・ ボランティア活動
- ・ 自然体験活動
- ・ 創作活動 等





「夏の正午」 喜入中学校3年 なかその 中園 ゆい 結

大切なこと

喜入中学校二年

しんやしき
新屋敷

ゆい
由衣

私の口ぐせは「大丈夫」
大丈夫じゃなくても大丈夫
気持ちを言葉に表せない
伝わらなくても諦めてしまう
話すことをやめてしまうこともある
伝わらなくていいと思っていたけど
それは違ったみたい
言葉にする大切さ
人と関わる大切さ
諦めない大切さ
教えてくれたのは
私の大切な人たちだったんだ
これからは
大切なことを
言葉にしていこう

目次

<絵：「夏の正午」 喜入中学校3年 中園 結 >

<詩：「大切なこと」 喜入中学校2年 新屋敷 由衣 >

巻頭言

鹿児島市教育委員会青少年課指導主事 上之園善孝 氏 3

さつまっ子の誓い

郷中教育に学ぶさつまっ子の誓い 4

特集

「みんなが楽しむあいご会」～コロナ禍でのあいご会活動

ブロック・校区あいご会・単位あいご会での活動紹介

・中間あいご会とうろう祭り	向陽校区あいご会	5
・夏野菜を収穫しよう	西陵校区あいご会	6
・城南維新かこ（水夫）カヌー大会	城南校区あいご会	7
・コロナに負けない応援グッズを届けよう	西田校区あいご会	8
・中学生清掃活動とスポーツレク	石谷校区あいご会	9
・つなぐ・つながる三世代交流	小山田校区あいご会	10
・子ども会大会 or スポーツ大会	松元ブロック	11
・絵画コンクール	谷山南部ブロック	12
・喜入ブロック子ども会大会	喜入ブロック	13

あいご会連合会事業

・会津若松視察研修	14
・理事等役員研修会	18
・令和4年度委嘱研究公開（吉田ブロック）	19
・令和4年度委嘱研究公開（南校区あいご会）	20

令和4年度あいご会連合会役員名簿等

・令和4年度あいご会連合会役員名簿・編集委員名簿・あとがき	21
-------------------------------	----

<表紙絵：桜峰小学校3年 ^{かない}叶 ^{こはれ}心晴 >

～ 巻 頭 言 ～

あいご会活動で体験活動の推進を

鹿児島市教育委員会青少年課
指導主事 上之園善孝



「わら編みは少し難しかったけれど、家族全員で楽しく参加することができました」「料理や作ることが好きなので、とても楽しかったです。」これは、12月に実施しました宮川野外活動センター主催事業に参加した子どもと保護者の感想です。宮川野外活動センターでは、年間3回の主催事業を実施しており、毎回多くの子どもたちが家族とともに、楽しく体験活動に取り組んでおります。

「社会を生き抜く力」として求められる基礎的な能力（コミュニケーション能力、自立心、主体性、協調性、創造力等）を育むためには、様々な体験活動が必要であると言われ、子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、「もっと深く学んでみたい、経験したことのないことにチャレンジしてみたい」等の意欲・関心や交通規則・社会のルールを守るべき等の規範意識が高いと調査結果にも表れており、生命や自然を大切にする心や他者を思いやる優しさ、社会性等を育む上で有効な機会であると考えます。



しかし、人口減少や少子化、価値観の多様化などにより、人と人とのつながりが薄れ、子どもたちを取り巻く環境にも大きな影響を及ぼしており、様々な体験をする機会が少なくなっています。また、物質的に豊かになり、生活が便利になる一方、仲間との交流を通して、主体的に考え行動したり、目標を達成して喜びを分かち合ったりするなどの機会が減少してきています。

子どもたちが充実した体験活動をするためには、周りの大人が体験活動の重要性を認識し、家庭・地域・学校が、それぞれに又は連携協力して、子どもたちの発達段階に応じた様々な体験活動にチャレンジする機会を意図的に提供していくことが必要になってきています。

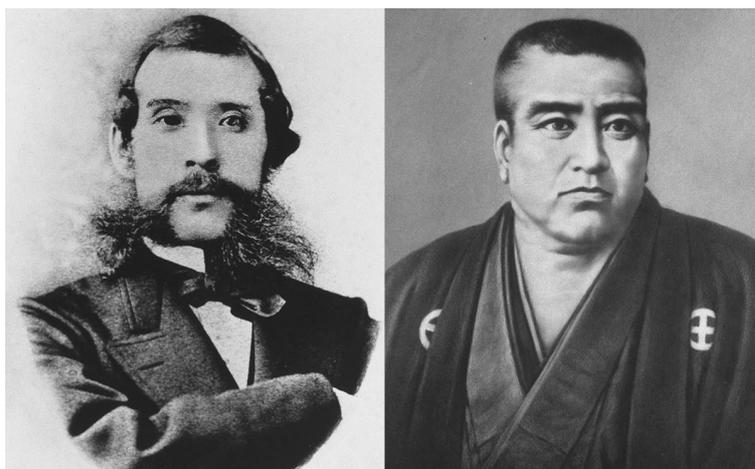
さて、体験活動『今後の青少年の体験活動の推進について（答申）平成25年1月21日中央教育審議会』によると、次の三つの体験に分類されます。

- 1 生活・文化体験（遊び、お手伝い、野遊び、スポーツ、部活動、地域や学校の年中行事など）
- 2 自然体験活動（登山、キャンプ、ハイキング、川遊び、星空観察、動植物観察など）
- 3 社会体験活動（ボランティア活動、職場体験活動など）

これらの体験活動は、まさに、各校区や地域のあいご子ども会で行われている活動であります。本市では、全市民が自主的に協力して健全な青少年を育成する、全国に誇れる地域ぐるみの青少年育成組織として、あいご会活動が展開されています。そこでは、異年齢の子ども同士で学び合う郷中教育の伝統を受け継ぎながら、地域に根ざした文化的・体育的・奉仕的・伝統的行事など特色ある活動が実践されております。コロナ禍において、時間設定や活動場所の選定、道具の準備や活動への配慮等、各校区・単位あいご会が工夫されながら、青少年健全育成に取り組んでくださっていることに感謝申し上げるとともに、今後ますますの発展を心から願っております。

郷中教育に学ぶさつまっ子の誓い

薩摩には郷中教育という薩摩藩独自の青少年教育制度がありました。豊臣秀吉の朝鮮出兵時、武士が出兵していた留守中、青少年の風紀が乱れたため、留守を預かる家老たちが考え出した教育制度です。簡単に言うと近所の武士の子ども同士で学び合う教育制度でした。



郷中の少年は、年齢別に次のように呼び名が変わりました。

小稚児（こちご）：満5～6才から9才まで（幼稚園児から小学校低学年）

長稚児（おさちご）：10才から14才まで（小学校高学年から中学生）

稚児頭（ちごかしら）：小稚児、長稚児のリーダー格

牛頭二才（ごずにせ）：14～19才

二才（にせ）：「兵子二才」ともいい、15才から20才半ばで未婚

二才頭：「郷中頭」とも言い、郷中のリーダー

郷中では早朝に読書や書道、座禅などの勉強をします。朝食を終えると「山坂達者」と言われる高低差のある地形を上り下りして体力づくりを行います。午後は示現流などの剣術をはじめとする、武芸の稽古です。教師と生徒という関係ではなく、リーダー格の者が下の子どもを指導しながらお互い子ども同士で学び合うのです。同じ郷中で鍛錬するので、まるで兄と弟のような絆が生まれました。明治維新で活躍した西郷隆盛や大久保利通など多くの武士がこの郷中教育で学び、活躍したのです。あいご会活動も幼児から中学生まで異年齢で活動します。まさに現代版郷中教育と言ってもいいのではないかと思います。

郷中教育では、「負けるな」「嘘を言うな」「弱い者をいじめるな」の3つの教えがとても大事にされました。この教えをもとに鹿児島市あいご会連合会では下のような「さつまっ子の誓い」を作りました。この「さつまっ子の誓い」を鹿児島市内各地のあいご会活動をはじめ、いろいろな場で提唱し、鹿児島の未来を担う心豊かでたくましいさつまっ子を育てたいと考えております。

さつまっ子の誓い

- 1 私たちは自分の弱い心に負けない、ねばり強い子どもになります。
- 2 私たちはうそを言わない、正直な子どもになります。
- 3 私たちはけっしていじめをせず、困っている人を助けます。

泣こかい 飛ぼかい 泣こよっかひっ飛べ

特集 「みんなが楽しむあいご会」～コロナ禍でのあいご会活動

【向陽校区中間あいご会】

地域でささえたあいご会行事☆「中間あいご会とうろう祭り」

私たち中間あいご会では、例年夏休みの初めに町内会のみなさんと夏祭りを楽しみます。しかしながらコロナ感染症の拡大で、2年の中止が続いていました。

今年度こそはと、町内会役員とあいご会のみなさんで話し合いを重ね、区長さんや他の役員の方々、地域の有志のご協力も頂き、町内会夏祭りの代わりに“あいご会とうろう祭り”を7月23日に実施することができました。



ゴミ拾いで、スタート



低学年は紙とうろう作り



はじめての竹と、格闘中

・はじめに、自分たちの町をきれいにしましょうと、企業の支援をいただきみんなでゴミ拾いをしました。捨てられているごみの種類についても、話し合いました。その後、小さな子どもたちは、紙キットで作るとろう作り体験を親子で頑張り、小学生高学年や中学生は、竹でつくる「竹とうろう作り」を体験しました。



中学生も竹とうろうを制作



とうろう作りの後は、お楽しみタイム！

子どもの感想

- ◆ 穴をあけるのは難しかったけど、地域のおじちゃんたちが手伝ってくれて、上手にあけることができました。家であかりをつけてもらったら、とってもきれいでした。
- ◆ こんなに大きな竹にさわったのは、初めてだったので、かたくてびっくりしました。
- ◆ 電動ドリルで穴をあける時に、割れてしまう人がいて難しいのだなと思ったけど、慣れてくると穴をあけるのがめっちゃ楽しかったです。

・コロナ禍で子どもたちの夏の楽しい思い出づくりとして始まった企画でしたが、地域のつながりの大切さを再認識できた貴重な活動になりました。密を避けるために、作業場所もメイン会場の他に、地域の有志の方の車庫を借りて確保をしたり、事前の人数把握、穴あけドリルの道具などのアドバイスをもらったりしました。また、熱中症対策や安全面では区長さん方に交代で会場や周りの安全の見守りもして頂きました。地域のみなさんの協力で楽しい思い出になりました。

【城南校区あいご会】

【城南校区 城南維新かこ（水夫）カヌー大会】

《子鳩たちよ！ふるさと甲突川で勇気ある冒険をしよう！！》

令和4年7月16日(土)甲突川にて「城南維新かこ(水夫)カヌー大会」を開催しました。当日は天候が心配されましたが、開会式直前に晴れ、無事開催することができました。天保山橋下の川岸からスタートし、普段は見ることのできない川面からの景色を見ながら、松方橋、武之橋下をくぐり抜け、西田橋付近までの往復約4キロを漕ぎ抜きました。今年度は、城南小学校90周年事業の際に頂いた寄付で購入したカヌーも使用しました。開催にあたっては、城南まちづくり協議会・鹿児島市カヌー協会の方々、地域の皆さま方にご協力頂きました。ありがとうございました！



参加した子どもたちからは「楽しかった！カヌーの良さを伝えていきたい。」という感想が出ました。また、自然の中でのカヌーをとおして、普段は感じるできない自然の怖さ・美しさを学べたという声が上がりました。今後も地域全体の協力を頂きながら、子どもたちと楽しめる行事を続けていきたいと思ひます。練習期間・当日ともに感染症対策を十分取って実施しました。

【城南校区あいご会長 安楽万里子】



【西田校区あいご会】

コロナに負けない応援グッズを届けよう

西田校区あいご会では、例年、様々な活動を行っています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度に引き続き、恒例行事が中止や延期となり、ほとんどのあいご活動が実施できていません。しかし、その中でも、実施することができた「コロナに負けない応援グッズを届けよう！」の活動を紹介いたします。

5・6年生の子ども役員が中心となり、地域の暮らしを支える人たちへの感謝の気持ちを伝える活動をしました。うちわに「大変な中、いつもありがとうございます。」「コロナに負けず、がんばってください。」など、地域の人への思いを書きました。うちわは、完成後に子どもたちと保護者の方々が地域の飲食店や郵便局、病院等に届け、喜んでいただきました。地域の方々のお力になれば嬉しいです。



【子どもの感想】

- ・ コロナの影響で営業が難しいと思いますが、このうちわで元気になってほしいです。直接うちわを配ることができて、ぼくも元気になりました。
- ・ このうちわで、みんなが笑顔になってほしいという気持ちを込めて作りました。
- ・ いつもお世話になっているお店にうちわで、感謝の気持ちを伝えることができてよかったです。

【西田小あいご会コーディネーター 大賀 美穂】

【石谷校区あいご会】

中学生清掃活動とスポーツレク

令和4年8月5日（金）15時～17時に中学生清掃活動とスポーツレクを行いました。

前もって申し込みを取り、中学校1年生から3年生のみなさんが集まり、体育館の清掃と校区公民館の清掃に心地よい汗を流しました。中学生リーダーが企画して、当日の運営をしました。どの生徒も小学校時代の先生に会えて楽しかったと声をあげていました。

校区公民館の清掃

申し込み41名 当日30名
私たちが「奉仕の心」を育てます。

スポーツレク



＜3年生 感想＞

楽しかった。たくさん笑って汗を流して、小学校の先生方と久しぶりにたくさん話せてうれしかった。なつかしくなった。

＜2年生 感想＞

企画・運営がうまく行ってよかった。母校をきれいにして気持ちよかった。疲れたけど、みんなや先生たちに会えてよかった。

＜1年生 感想＞

体育館が汚れてきたなかったけど、きれいに掃除できてよかった。暑かったけど、久しぶりに先生たちとも会えてよかった。

申し込みは41名でしたが、当日は30名の参加でした。暑い中、体育館の窓そうじ、トイレそうじ、また校区公民館まで一生懸命きれいに掃除してくれました。てきぱき動き、片付けまでしっかりやってくれて、「さすがは中学生だ」と感心しました。換気や消毒、体温チェックなどのコロナ対策をしながら実施できてよかったです。

【石谷小あいご会コーディネーター 岡林はるか】

【小山田校区あいご会】

つなぐ・つながる三世代交流 小山田あいご会

小山田校区は、上・中ノ甲・上原・名越・下・永吉の6つの単位あいご会があります。地域の大人（祖父母世代、子育て世代）がいっしょになって子どもの豊かな体験を生み出し活動することを通して、地域のつながりを強める役目を担っています。今年も年末に校区あいご会行事でミニ門松を作る「竹細工で遊ぼう」が実施されました。

前日、校区内の竹山に向かいました。竹の切り出しに集まってくださったのは、校区あいご会役員の皆さん方です。皆さん仲がよくて、冗談を言いながらもてきぱき段取りよく進めていきます。

こん竹がよかぞ。
若竹はよかぞ。



修理をしたら、
よう切るいわ。



全部で何本切つとけ？



わっぜえーなげなあ！
何メートルあつどかい？

電動丸鋸は慣れた人
じゃなかとね！



竹細工で遊ぼう 12月5日（日）

16家族の参加がありました。校区在住の市竹産業振興組合員2名を講師として、地域の方々の加勢をもらいながら、すてきなミニ門松を完成させることができました。



■皆さんに手伝っていただきとても立派な門松ができました。■なたを使うのが難しかったけど楽しかった。■今回の活動を通して少しでも竹について興味を持ってくれたらいいなと思いました。また参加したいです。■地域の方に久しぶりに会うことができ、子どもたちも親も楽しかったです。■初めて参加しました。地域の慣れた方々の力を借りてお正月の準備ができてとても嬉しかったです。■2回目参加で、前回よりもスムーズに作ることができました。親子いっしょで楽しい時間を過ごせました。■竹の節のところでカットするのは断面が笑ったように見えるから縁起を担いであるのだと祖父から聞き、一つ一つに意味があり、素晴らしいと思いました。（体験感想）

【小山田小あいご会コーディネーター 角園 慈子】

子ども会大会orスポーツ大会

8月20日（土）9時から松元小学校体育館にて松元ブロックあいご会子ども大会を行いました。7月からの延期日ではありましたが、松元の4校区から多くの参加がありました。

子ども大会では、鹿児島ユナイテッドFCの田上応援リーダーに、夢に向かって努力することのすばらしさについて講演をしていただきました。また、スポーツ大会では、田上選手にボールのけり方のコツなどを教えていただきながら、ボールパスをしたり、ボールパスリレーをしたりしました。田上選手によるプロの技もたくさん見せていただき、子供達の記憶に残る良い活動になりました。



「いいね」とたくさんほめてもらってうれしかったです。



開催数日前から検温と健康チェック、また子ども同士の間隔を十分にとったり、消毒の時間を設けたり、新型コロナウイルス感染対策を十分行いました。また、運動中はマスクを外し水分補給の時間をとるなど、熱中症対策も行いました。けがもなく安全に楽しく活動できてよかったと思います。こういった機会をこれからも増やせていけたらいいなと思います。

【松元小あいご会コーディネーター 川崎奈津子】

【谷山南部ブロック】

絵画コンクール

令和4年度あいご会谷山南部ブロックスポーツ大会・子ども会大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、昨年度に引き続き中止となりました。

そこで、今年度は、子どもたちの活躍の場を確保するため、「新型コロナウイルス感染症が明けたら、なにがしたいか？～希望・未来を乗せて～」というテーマで子どもたちが絵に表現した絵画作品の展示を企画・運営しました。展示の期間や表彰の方法などについては、谷山南部ブロック研修会場で話し合い、夏季休業中に子どもたちに絵を描いてもらい、各校区から8名の入賞者を選定しました。

新型コロナウイルス感染症が流行って早2年が過ぎました。普段から子どもたちは、様々な場面で苦慮していることも多いようですが、それぞれが新型コロナウイルス感染症の収束を願って絵を描いてくれました。絵は、谷山市民会館の協力のもと、11月上旬から12月下旬までの2か月間、展示させていただきました。

今後、スポーツ大会等が実施できることを、子どもたちと共に願っています。

～子どもたちの作品～



【西谷山校区あいご会長 山口 政行】

【喜入ブロック】

喜入ブロックあいご会子ども会大会



活動後、みんなで記念撮影！

喜入ブロックでは11月6日（日）に喜入地域あいご会子ども会大会を喜入の大丸海岸で開催しました。今回は「海と日本のプロジェクトIN鹿児島」の皆さんと一緒に海岸清掃を行いました。次のような思いをもって開催にあたりました。

- ★ 喜入地域の小・中学生が集い、活動を通して異年齢交流や親睦を深める。
- ★ ウミガメの産卵や上陸がある地域の自然環境に親しむとともに自然に関する意識を高める。
- ★ 大丸海岸に設置された「拾い箱」の思いをつないでいくとともに、ゴミ拾い活動をみんなで行い、地元のきれいな海を未来に残していこうという子どもたちの育成に努める。

当日は120名というたくさんの方が参加して活動を行いました。まだまだ感染症に配慮しながらの開催ではありましたが、ご協力を頂きながら開催できたことに感謝申し上げます。

活動に参加しての感想発表



活動の様子



MBC柴さとみさんのインタビュー



たくさんのゴミが集まりました



【前之浜校区あいご会長 大迫 真弓】

会津若松視察研修



会津若松駅と白虎隊像



会津でできた桜島大根と名誉会長・推進室長

令和4年7月5日（火）から2泊3日で会津若松視察研修に会長以下役員4名でかけました。令和3年度に会津若松市子ども会のジュニアリーダー一行が県外研修の一環で鹿児島市を訪れ、あいご会の子どもたちと交流会を開く計画でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止となってしまいました。せっかく準備をしていたので申し訳ないということで、会津若松市子ども会育成連絡協議会のメンバーが11月に鹿児島市を表敬訪問されました。その際、あいご会連合会や参加予定であった子どもたちにもたくさんのお土産をいただきました。何とかそのお礼も兼ねて会津若松市を表敬訪問しようということでの視察研修でした。

鹿児島の特産焼酎や銘菓、そして桜島大根の種1万粒をお土産に持参しました。桜島大根の種は桜峰校区あいご会長の宮元春清さんから県外交流ということであればと特別に頂きました。11月には写真のような立派な桜島大根ができたというメールが届きました。

市長や教育長さんへの表敬訪問、子連メンバーとの交流会、鶴ヶ城や白虎隊戦没慰霊碑等の見学を行いました。会津若松は白虎隊で有名なところ。白虎隊は幕末維新の戊辰戦争で武家男子を集めて組織された部隊です。戊辰戦争で敵として戦った薩摩や長州に対しては、どちらかというあまりいい感情はもってられないそうです。「過去は過去、まずは鹿児島を訪問し、子ども達に交流させたかった」と子ども会育成連絡協議会の名誉会長さんが力説されていたのが印象的でした。「今度は子ども達の交流をぜひ実現させたいですね」とお互いに確認してお別れすることでした。



室井市長（右から5人目）を表敬訪問した西村会長（同6人目）ら

鹿児島の子ども育成団体が若松市長表敬
鹿児島市で子ども会の育
成母体として活動する同市
あいご会連合会は6日、会
津若松市役所に室井照平市
長を表敬訪問した。
会津若松市子ども会育成
連絡協議会が昨年11月、
少年少女交流事業の事前研
修として鹿児島市を訪問し
たことから、返礼を兼ねて
同連合会が訪れた。室井市



長が「新型コロナウイルスの影響で子どもたちが訪れることはできなかったが、子どもたちには歴史を学んでほしい」とあいさつ。西村光行会長らが、同協議会の新井田万寿子名誉会長らに桜島大根の種約1万粒を手渡した。種は各地区の子ども会に配られる。

福島民友新聞記事

＜参加者感想＞

【あいご会連合会 副会長 柿元まり子】

4月初め、会津若松市への視察研修のお話をいただき、二つ返事で参加を伝えました。

校区あいご会長として2年、連合会の副会長として1年目を終えた私は、コロナ禍で思うように活動ができないもどかしさに加え、大役への力不足を痛感していました。それでもお引き受けした以上は、可能な限り全ての行事に参加し、とにかく見聞を広めようと心に決めておりましたので、今回の参加も迷いはありませんでした。

会津若松へは、ほぼ半日がかりの移動となりました。飛行機、新幹線と乗り継ぎ、郡山から磐梯西線に乗ると、すぐに豊かな田園風景と雄大な磐梯山が現れました。眼前に広がる景色を眺めながら、150年程前に幕末の藩士たちがそれぞれに抱いた日本の未来に思いを馳せました。

会津若松駅では、白虎隊の像に迎えられ、その脇には「あいづっこ宣言」という立派な立て看板がありました。後に市内の至る所で目にするようになりますが、会津城下で伝えられてきた掟をもとに青少年育成への思いを唱えやすい宣言にしたものだそうです。これを目にしただけで、会津若松市の青少年育成への思い入れの強さを感じ、視察への期待が高まりました。

翌日はいよいよ市長や教育長への表敬訪問です。並々ならぬ緊張でしたが、昨年鹿児島を訪れた市子連の皆さんがにこやかな笑顔で私たちを迎えてくださいました。その満面の笑みに、会津と薩摩という歴史の関わりを持つ上での訪問に抱えていた一抹の不安は吹き飛びました。名誉会長はご高齢ではありましたが、その圧倒的な存在感から発せられる力強い言葉の一つ一つから、子どもたちに対する熱意がひしひしと伝わってきました。

その夜の懇親会では郷土料理をいただきながら、お互いの組織における現状や活動において尽きることなく話に花が咲きました。会津のみなさんは会津の歴史に造詣が深く、先人からの思いをととても大切にされておられました。それに比べて私たちは、幕末から維新にかけて華々しく活躍した先人を持つ地でありながら、その歴史を学び先人を尊び敬っているだろうかという思いに駆られました。懇親の時間はあっという間に過ぎ、会の終わりにはずっと前から交流があったように感じました。

この視察研修で、子どもたちのために、また子どもたちの喜ぶ顔が見たいという一心で、彼の地で懸命にがんばっていらっしゃる方々とお会いすることができ、子どもを思う気持ちはどんなところでも一緒なのだと感じました。あいご会への情熱をさらに高めることができました。「任重くして道遠し」ではありますが、私なりに精一杯務めていこうと思います。

【あいご会連合会副会長 森田眞一】

令和3年度に会津若松市の子ども会を伴った交流視察団が来鹿の予定でした。しかし、コロナ禍のために大人の役員だけの来鹿となり、その返礼を兼ねての交流研修となりました。会津若松に着くまでは飛行機・東北新幹線・在来線と乗り継ぎ、それからの交流に期待を膨らませながらの道程でした。福島県に入ると、緑一面の田んぼと雄大な磐梯山を見ることができました。磐梯山の姿に鹿児島島の桜島にも似た郷土を見守る存在を感じることでした。

会津若松駅に降り立つと郷土玩具である赤べこが出迎えてくれ、駅を出ると「白虎隊」の像と「あいづっこ宣言」

風格ある鶴ヶ城



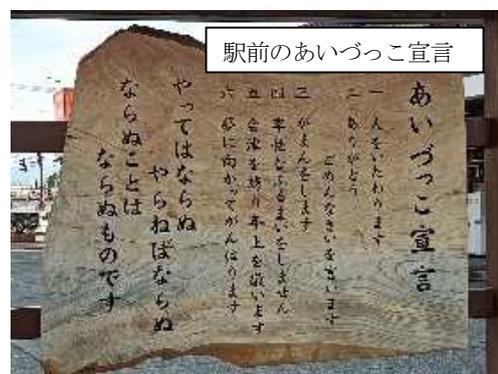
磐梯山



の看板が目につきました。白虎隊の像とあいづっこ宣言は会津若松の子どもたちと若者への教えで対になった導きのものと思われました。会津は古くから子どもの教育に地域で取り組むところがあり、白虎隊の少年達が郷土を思う心と少年達が学んでいた館などを市内のいたる所で見ることができました。また、学んだ少年達は地域の子どもたちへ遊び方やいろいろな指導を行っていたということで、鹿児島島の郷中教育に似たところも発見しました。

このあいづっこ宣言は小学生になると暗唱し、中学校に入学するときには再び宣言のカードをもらい、「あいづっこ」としての意識を高めるという幼少から少年までの徹底さに驚かされました。その反面、鹿児島にも昔から子どもたちへの教えとして「負けるな 嘘をつくな 弱いものをいじめるな」があるが、もっと頻繁に目にし、声にされてもいいのになあと、曖昧になりつつあることを危惧することでした。

2日目は交流の合間で史跡を巡りました。泊まった宿から遠くに鶴ヶ城や白虎隊自刃の地である飯盛山などが確認でき、早々に宿を出発しました。飯盛山に登ると、中腹には猪苗代湖からの用水路が横切っており、400年も前に31キロメートルの戸ノ口堰洞穴を設け会津盆地に水を引いており、今も豊富な水が流れ使われていました。さらに登ると白虎隊自刃の地があり、そこは当時を偲ばせる所で遠くに鶴ヶ城を望むことができ、最後の少年達の複雑な心境を窺わせるような静寂な場所でした。



それから猪苗代湖に足を延ばしました。桜島にも似た壮絶な地殻変動でできた山と平地と湖を見ることでした。帰りの車中からはやはり東北だなと思わせる冠雪した飯豊山が新潟県の方に見えました。その後訪れた鶴ヶ城は思っていたより城郭が大きく驚くことでした。城や石垣のことについてボランティアの方に詳しく説明してもらい、天守閣に登りました。四方を見渡すと会津盆地の広がりが見られ、より一層鶴ヶ城の大きさを感じさせました。

会津若松市役所を訪問すると市長表敬訪問の段取りもしてあり、市長さんと鹿児島市の子ども会育成やあいご会組織についての話を交換しました。また、機会が整えば子ども会を交えた交流もできたらと話題に上がりました。150年前の戊辰戦争における薩摩と長州との遺恨が高齢の方にはいまだあるという話をされました。その後、教育長さんや会津若松子ども会育成連絡協議会の方々と昨今の子ども育成の環境などについて話を交わしました。その夜は関係の方々と会津若松市と鹿児島市の両子ども会育成について話を交わし、この交流を大事に生かしていきましょうと懇親会を閉じました。

3日目の帰り、会津若松駅をバックにみんなが幸せになるために「ならぬことはならぬものです」というもう一つの看板があり、厳しさの中にこどもの健全育成が広く貫かれていることを感じ、鹿児島も一貫した教えをいい伝統としてもっとアピールできたらと思いながら帰路につくことでした。

【あいご会連合会会長 西村 光行】

令和3年に会津若松市子ども会育成連絡協議会より鹿児島市の子ども会との交流会開催の連絡があり、両市子ども会発展のため交流会をすることとなりました。8月15日開催に向けて交流会の準備を整えておりましたが、会津若松市より新型コロナウイルス感染症拡大影響で残念だが中止しますとの連絡がありました。私どもも残念でしたが新型コロナウイルス感染症では無理だと思いました。それから会津若松市子ども会より交流会を中止したことのお詫びの表敬訪問を新井田会長さん他役員数名で来られました。



あいご会連合会も事務局会議を開き、遠路会津若松市から来鹿されたことに対し、好意返礼の表敬訪問をすることとしました。県外への外出出向もできるようになった7月に視察表敬することとなりました。

7月5日、羽田、東京駅から福島県郡山を経由して、ローカル線で一路会津若松市へ向かいました。福島県の民謡に歌われている会津磐梯山（1819m）が車窓から右側に緑広がる姿が見えました。冬はスキーもできるそうです。

会津若松駅に降りますと、駅前には白虎隊像と立派な看板があり、あいづっこ宣言が書いてありました。「やっつてはならぬ やらねばならぬ ならぬことは ならぬものです」（前文省略）。旧会津藩の精神が脈々と受け継がれ、青少年健全育成の礎となっている証しであると思いました。鹿児島島の薩摩藩にも郷中教育があります。小稚児、長稚児、二才（にせ）とあり、先輩が後輩を教え導く独特な教育法です。善き教えを受け継ぎながら、次世代の両子ども会が益々発展することができると思いました。

2日目、会津若松市役所へ市長表敬訪問しましたところ、室井市長自ら出迎えてくださいました。市長さんたちと懇談を進める中、鹿児島から表敬訪問の印に、桜島大根の種1万粒を贈呈しました。学校、関係団体等で種を育てていただき、大きな桜島大根が育つことをお願いしました。市長からは「先日にも鹿児島市のロータリークラブの方々をお会いしたばかりだ。もう長年交流を続けております。鹿児島とは何ら違和感などありません。昔のことですよ。」という話がありました。新井田名誉会長のあいさつの中で「恩讐を忘れ、子どもたちが歴史を越えて会津と薩摩にすばらしい虹の橋をかけて、これから未来に向けてお互い理解し、新しい山河豊かな住みよい町づくりができることを願い、次世代へ託したい。鹿児島との交流はこのような思いからですよ。」と話されたのが心に残りました。機会があれば、ぜひまた鹿児島を訪問したい様子でした。

その夜、会津若松市子ども会育成会主催の懇親会があり、出席された方々はそれぞれに子ども会への思いを存分に語り合うことでした。新井田名誉会長さんは現在までの歩みを話され、子どもたちへの情熱にはいささかの余談もなく圧倒されました。子ども会に携わる者同士、親交を深める機会となり、会津若松市の方々に感謝いたしております。

会津若松市子ども会には、「指導児童講習会」があり、地域子ども会のリーダー育成事業として青少年健全育成の中心的施策であり、全市を挙げて取り組んでいる事業だそうです。小学4年生を1期生、5年生を2期生、6年生を3期生とする3段階方式のジュニアリーダー養成講習となっています。集大成の3期生はゆかりの地での交流や県外交流を行っています。この養成講習はあいご会連合会でもニューリーダーの発掘の一環になると思いました。

今後、5年後、10年後と我が国は人口減少をたどり、子どもの数も減少するものと考えられます。あいご会の活動にも影響が及ぶと予測されます。また、この3年間の新型コロナウイルス感染症という魔物に翻弄され、様々な形態が変容し、出口が見えない状態が続きそうです。あいご会が持続可能な活動ができますよう、あいご会関係者皆様の英知と協力をお願いします。



会津若松市子連の皆様と



観光ボランティアの説明

町内会長就任・・・そして実践へ・・・ ～みんなが活躍できる地域をめざして～



金子陽飛さん

令和4年10月20日（木）に理事等役員研修会を開催しました。各校区からあいご会長やあいご会コーディネータなど85人が集まりました。高校生町内会長として話題に上がりました金子陽飛さんに「町内会長就任・・・そして実践へ・・・～みんなが活躍できる地域をめざして～」と題した講演をしていただきました。

金子さんは高校3年生のときに全国初の高校生町内会長に就任され、町内会長として3年目を迎えています。大学発ベンチャー企業「フルハークウィル株式会社」を設立され、取締役として町づくりや地域づくりのアイデアやアドバイス、子どもの学習や遊びに関する相談事業などを行っています。講演の骨子は次のようなことでした。

町内会長就任まで

- ・中学1年生のときに不登校の経験（学校へ通うことの意義の喪失）
- ・通信教育N高等学校への進学での転機（アーチェリーとの出会い、コミュニケーションの楽しさ）
- ・父親の町づくりへのプロジェクトに参加 → 自分の住んでいる町に興味を持つようになる
- ・町内会の役が回ってくるため「町内会をやめようかな」という母親のため息混じりの告白
- ・「町内会長をやってみたら」という父親の一言
- ・なかなか会長が決まらない中で「自分がやります」と宣言 → その場の空気が一変

会長になって

- ・自分の町内会50数軒全てをあいさつ周り → これまで何もないと思っていた町内会の見え方変化
- ・町内会の実態の把握、ネガティブな実情（3分の1が75才以上、夏祭りなどの行事が削減）
- ・見方を変えると・・・町内にはいろいろな個性豊かな人達がいることに気付く
- ・他人事から我が事への転換・・・無関心だったことが見えるようになる
- ・町内会が衰退したのはなぜか？ ○○しなければならないことばかりの町内会
- ・負の平等性からの解放（「○○しなければならない町内会」→「○○したい、○○して楽しい町内会」）
- ・現代はやる気や元気が失われている社会 → 「元気があれば何でもできる」
- ・やる気が新たな世界を作り出す
- ・短期的なワクワクドキドキでなく中長期的なワクワクドキドキを（継続できるようにするには）

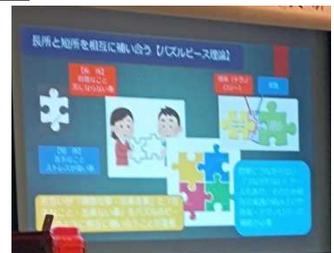
新たな挑戦

遺伝子継承型町内会活動

- <例>地域の祭りに向けた考え方
- ・継続させることばかりに意識？
- ・地域の祭りの再構築
- <例>敬老の日のお祝い
- ・対象者以外に認識されていない
- ・本来の目的に近づける新しいアイデア（子どもたちのメッセージ）

パズルピース型町内会活動

- ・長所と短所を相互に補う合う
- ・できる人ができることをやる
- ・町内会役員の仕事の可視化（モジュール化）
- ・モジュール化した仕事内容のファイリング、ICT



遺伝子継承型あいご会活動、パズルピース型あいご会活動として応用できそうです

【吉田ブロックあいご会】

- 1 期 日 令和5年2月11日(土)
- 2 会 場 鹿児島市立宮小学校体育館
- 3 研究テーマ 「これからのあいご会を支える考え方と新たな取組」
～吉田ブロックあいご会の現状と課題から～
- 4 参加人数 75名
- 5 研究概要



(1) 研究テーマ設定の理由

吉田ブロックあいご会においては、各校区とも「感染症の影響と高齢化や少子化による会員の減少から、行事の継続が難しい」という悩みを抱えていた。このことから、あいご会の理念に基づいた、あいご会活動の在り方を再考することが必要だと考えた。

(2) 研究の視点について

《視点① あいご会の理念に基づく活動内容の在り方》

- 校区全体で子どもを守り、支える日常的な活動の模索 (各校区)
- 子どもが主体的に運営する共催行事の検討 (ブロックあいご会)

《視点② 校区の実態に合わせた組織運営の在り方》

- 地域、PTA、学校の連携・協働体制の確立 (各校区)
- 校区間の連携・協働や共催行事の企画 (ブロックあいご会)

(3) 実践事例1～宮校区「みんな笑顔であいさつ運動」の取組～

「あいさつがよく、つながりが強い地域では、不審者事案も少ない」という共通認識のもと、毎月1日に校区一斉あいさつ運動を行っている。それぞれの組織が次の役割を担い、連携・協働しながら取組の充実を図っている。

地 域：家の前で立哨、校区放送での周知、ワッペン配布(企業等あいさつ回り)

PTA：ネーミング・ワッペンデザインコンテストの実施、ワッペンの作成

学 校：「あいさつの花」運動の取組、学校便りやホームページによる啓発



【ワッペンの配布(地域)】



【ワッペン作成(PTA)】



【あいさつの花運動(学校)】

(4) 実践事例2～吉田ブロックあいご会共催「かごしまふるさとカルタ大会」～

企画・運営に当たっては、次の4点を重視した。

- ア 子どもが主体となって運営できる内容にすること
- イ 他校の子どもとふれ合うことができるチーム編成を工夫すること
- ウ 感染症や熱中症予防の観点から実施時期を検討すること
- エ 校区間の連携を図り協働体制で子ども主体の大会運営をサポートすること

12月3日(土)の大会当日、他校の児童・生徒と協力しながらチームの勝利を目指してカルタを楽しむ子どもの姿が見られた。また、進行や審判などの運営も、参加した子どもの手で行うことができた。事後の感想は「自分たちで大会運営ができて自信になった」、「他校の友達と協力できて楽しかった」など、充実感に満ちていた。



【カルタ大会の様子】

6 終わりに

あいご会研究公開における研究協議では、負担感を感じつつも「子どもをみんなで支える」ことについては、前向きで熱い意見が飛び交っていた。今後とも、子どもが主体的に活躍できる場を考えつつ、連携・協働体制を大切にしながら、子どもを支える取組の充実をみんなで図りたい。



【研究協議の様子】

【南校区あいご会】

- 1 期 日 令和5年2月26日(日)
- 2 会 場 鹿児島市立南小学校 体育館
- 3 研究テーマ 『人がふれあい 人に学ぶまち みなみ』
～手を取り、ともに伸びていく子どもを育てるあいご会のあり方～
- 4 参加者 131名
- 5 研究概要

(1) 研究テーマの設定理由

近年では、少子高齢化に伴う子どもの減少、共働き家庭の増加による保護者の多忙化、ネット環境の普及によつての人間関係の希薄化など、子どもたちを取り巻く環境が変化してきている。あわせて、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響によつて、全ての活動の自粛を余儀なくされ、たとえ活動ができたとしても、感染への不安から参加に踏み切れず、人が集まらないのが現状である。

そこで、地域の各団体や学校と連携を図りながら、校区を挙げてあいご会の活動の充実を図ることができるよう、このテーマを設定することとした。

(2) 学校・コミュニティ協議会・各町内会との連携並びに共同実践

ア 校区あいご運動会

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、運営にあたって大幅な見直しが必要とされた。事前準備は、感染拡大状況を考慮しながら進め、当日は学校や各町内会、コミュニティ協議会の運営協力をいただき、無事に開催することができた。また、競技内容の精選や参加者一人一人の負担軽減にも努めた。



イ 夜警巡回〔三和町あいご会〕



日頃から、町内のパトロールを行っているボランティアの皆さんにご協力いただき、あいご会と合同で地域内の夜警巡回を行った。昭和36年10月に、現在の三和町一帯が火災に遭い、大きな被害が出たことから、火災予防には特に力を入れて取り組んでいる。この経験を通して、多くの人たちに支えられて、町の安全が守られていることをあらためて感じる事ができた。

ウ 夏祭り〔南郡元あいご会〕

南郡元町では、以前南鹿児島駅前大きなステージを設置して、大々的に夏祭りを行っていた。その熱い思いを子どもあいご会が受け継ぎ、規模は小さいが手作りの夏のイベントを企画している。多くの地域の方にも参加していただき、楽しいひと時を過ごすことができた。ここ数年は、町内会主催で花火の打ち上げも行っている。



(3) おわりに

単位あいご会と各町内会との自発的な活動により、地域の皆さんとふれあい、充実した活動ができた。また、各町内会やコミュニティ協議会との『横のつながり』を大切にしながら、コロナ禍のできる限りの活動に取り組むことができた。しかし、ライフスタイルの変化に伴い、町内会加入やあいご会活動への参加者確保が困難であることは今後も変わることはないので、活動内容を精選するとともに、活動実績を踏まえ、今後は組織の再構築を図る必要があると考えている。

【令和4年度 鹿児島市あいご会連合会役員名簿】(令和5年1月現在)

会副 常任理事	会長	西村光行	山向陽	常任理事	迫田正広	小桜山田
	副会長	森外城戸昭一	向福和田	重富加霜大坂南山山	田久藤出迫尾	松谷清前西坂
	理事	柿元まり子	宮方丘山田幡	南大名草八	加佳真代加静頼	元武
	理事	米森集芳	明牟	監事	尾	之
	理事	狩東松黒財	武秀光	事務局長	南山下元	元武
	理事	松屋敷	武秀光		元保	
	理事	黒木山久原加霜弓	秀光		乃厚保	

【あいご会専門部組織】

役職	総務部		研修部		広報部		育成部	
	氏名	校区名	氏名	校区名	氏名	校区名	氏名	校区名
部長	松田武泰	名山幡	奥村龍一	川上南	福元義弘	中山岡	岡部高之	高武
副部長	財部光三	八本南	安楽万里	城本久	迫田正俊	山岡元水	保岡あゆみ	松中花坂
理事	川畑集芳	南大草	木場浩司	西紫敷	遠矢仁司	坂清水	矢野俊也	元武
理事	東屋敷	明牟	若松利一	伊東錫	末吉みどり	武松	垂野平	花野
理事	黒木山久原加霜弓	秀光	鶴田さくら	吉元晋平	小富田	織良治	上田元春	花野
理事	米山久原加霜弓	秀光	吉元晋平	永田正美	寶來	寶來	川原久夫	花野
理事	原口信佳	谷清一	下田	倉	喜	喜	大迫	花野
理事	加霜弓	清一	倉	倉	喜	喜	大迫	花野

【校区あいご会連絡協議会会長・あいご会コーディネーター(小学校・校区)】

No.	校区名	あいご会会長		あいご会コーディネーター		No.	校区名	あいご会会長		あいご会コーディネーター	
		小学校	校区有志	小学校	校区有志			小学校	校区有志		
1	吉田	西屋敷純子	坂元江利子	原田正樹	28	田上	徳永真輔	徳留敦	脇重伸		
2	本名	川畑仁司	横山秀仁	福石のぞみ	29	西陵	山下香織	重原由美	前村貴久		
3	宮	米森清信	脇みどり	北園順子	30	広木	徳利浩司	谷水里紗	榎蘭学		
4	本城	木場田久	井上徹郎	斜木直美	31	中洲	保岡宏武	新田唯	上香織		
5	牟礼	岡山下和俊	金氣直人	大重直子	32	荒田	黒岩賢彦	武かおり	原口透		
6	南方	狩集芳子	北山みさと	大重直子	33	八幡	財部光三	竹原信汰	今村聖子		
7	花尾	矢野あゆみ	井上博和	大重直子	34	中郡	寶來良治	有田未悠	南谷公一		
8	郡山	竹下大悟	三井有貴	松下順子	35	紫原	竹之内哲義	牧口紘子	丸峯正史		
9	川上	奥村龍一	十倉由衣	春山昭則	36	西紫	若松竜太	富田垂矢	長田智美		
10	吉野	北原英樹	長倉有伊里	奥山みえ子	37	鴨池	伊達三男	北田実優	高島英夫		
11	吉野東	仮屋光一	中村かおり	南琢磨	38	南	古川大史郎	日高夏奈	井上ひろみ		
12	大明丘	東屋敷	田中沙織	中馬知子	39	宇宿	柏木純孝	海江田将太	橋口三知広		
13	坂元	遠矢仁司	泉小春	大木場真一	40	向陽	森田真一	山崎百花	中野恵津子		
14	清水	種子島俊也	中津彩乃	南静乃	41	伊敷	鶴田利一	川口真貴	山下友美		
15	龍山	末吉みどり	東愛里	岡尾浩一	42	花野	上田平	山下弓絵	中野則昭		
16	大名	松下剛	前園智子	本村暢子	43	西伊敷	和嗣	川畑結佳	米倉佐和		
17	山下	松田武泰	小村拓矢	萩原功一郎	44	伊敷	久保田美紀	川村菜央	日高祐紀子		
18	山原	西村光行	江口真理	久保健市	45	玉江	米山太助	山本梨華	中間亜希子		
19	松原	岡部高之資	大山綾佳	田地行真由美	46	小山田	迫田正広	角園慈子	上原健		
20	城草	安楽万里子	宮田瀬奈	吉住さおり	47	犬迫	蓑輪忠博	峯満彦	鶴田祐平		
21	草牟	黒木秀一	古屋敷瑠璃	祝真一	48	皆与	志末満文	道上正彦	米倉文治		
22	原良	北脇一恵	元紀子	前園夏絵	49	東桜	島吉松さくら	大戸里慎	岩元益男		
23	明和	上塘由紀	村場亮太	神園寛子	50	改新	有馬孝志	中野善文	岩元益男		
24	武岡	林ひろ美	小野聖真	古閑望	51	黒神	石田清華	中野善文	岩元益男		
25	武岡	小出志織	田川瑞希	川元達子	52	桜洲	重久公香	餅井夏希	萩原貞信		
26	西田	崎元博典	大賀美穂	大内田友代	53	桜峰	宮元春清	高橋愛梨	柳田知美		
27	武	垂野望	柿生	坂口哲朗	54	松元	富田一良	川崎奈津子	久永美保		

No.	校区名	あいご会長			あいご会コーディネーター			No.	校区名	あいご会長			あいご会コーディネーター					
		小学校			校区有志					小学校			校区有志					
55	東昌原	信博	棚原	友子	濱田	美香	68	桜丘	若松	久夫	木村	真貴	子若松	明香				
56	春山	信治	森満	勝幸	齋藤	美枝	69	桜丘	有留	雄一郎	田上	大樹	谷口	拓也				
57	石谷	須納	瀬恵	美子	岡林	はるか	70	星峯	西三	反園	輝男	今村	美月	福永				
58	谷山	加藤	裕子	大山口	夏美	吉留	71	星峯	鈴木	健吾	平田	めぐみ	北山	清悟				
59	西谷	山口	政行	牧内	愛美	福永	72	宮東	永田	晋平	東	美里	前田	亜矢				
60	東谷	山中	建男	井之元	菜瑚	塩屋	73	皇徳	坂口	はづき	長濱	慧	水口	博子				
61	清和	霜出	佳寿	田坂	鈴香	博文	74	瀬々	串内	木場	司	下堂	蘭早	村中				
62	和田	柿元	まり子	静岡	仁美	有馬	75	中喜	名入	前原	博明	鎌田	しのぶ	福永				
63	錦江	川原	恵子	石原	聖生	小山田	76	喜之	入下	田正	美	瀬戸	口礼	果都				
64	福平	外城	戸昭一	中村	清華	古川	77	前之	大迫	真弓	綾部	弘子	鈴	房代				
65	平川	今原	孝文	鮫島	研	大野	78	生一	古殿	和博	下迫	瑞輝	山崎	幸子				
66	錫山	吉元	健児	藤島	浩	一	79	中	弓指	博人	黒木	春輝	—	—				
67	中	福元	義弘	新原	竜美	萩原	孝司											
あいご会長79名													小学校あいご会コーディネーター78名			校区有志あいご会コーディネーター73名		

【あいご会コーディネーター名簿(中学校)】

No.	中学校名	コーディネーター	No.	中学校名	コーディネーター	No.	中学校名	コーディネーター
1	吉田北中	大迫 雅央	14	武陵中	井上 美南	27	桜島中	前原 崇広
2	吉田南中	松山 健太郎	15	西陵中	森田 直樹	28	松元中	有村 萌花
3	郡山中	平谷 惇	16	甲南中	山本 蒼斗	29	谷山中	新井 星哉
4	緑丘中	萬膳 和久	17	天保山中	松山 龍裕	30	谷山中	八木 孝平
5	吉野中	吉松 幹久	18	鴨池中	相星 貴人	31	和田中	折口 恭健
6	吉野東中	田實 晃	19	南池中	徳永 大悠	32	福平中	近川 香太
7	坂元中	藤井 由賀	20	紫原中	生田 悠人	33	錫山中	後迫 春裕
8	清水中	明石 はるな	21	西紫原中	福留 一朗	34	谷山北中	石山 史都
9	長田中	小正 千洋	22	伊敷中	木原 麻紗	35	皇徳寺中	椎原 史徳
10	甲東中	吉村 英樹	23	伊敷台中	小牟田 浩輔	36	星峯中	池田 徳悠
11	城西中	丸山 翔穂	24	河頭中	春田 大隆	37	桜丘中	葛地
12	明和	久保 田美穂	25	東桜島中	春田 島太郎	38	喜入中	帖
13	武岡中	高田 奈々	26	黒神中	湯川 拓毅			
中学校コーディネーター38名								

【あいご新聞・あいご誌編集委員名】

所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名
広報部長	福元 義弘	広報部員	小出 志織	市教育委員会	下園 昌三
広報副部長	迫田 正広	〃	富田 一良	事務局	山元 保
広報部員	山下 俊和	〃	柿元 来良		
〃	遠矢 仁司	〃	前原 博		
〃	末吉 みどり	〃			

あとがき

新型コロナウイルス感染症が流行してから3年が経ちました。昨年は日本全国でオミクロン株の変異種が猛威をふるい、鹿児島県内でもたくさんの方が感染し、死者も出ました。なかなか収まらない新型コロナウイルス感染症に対してあきらめの心境になってしまいがちです。

あいご会活動もその影響を受けました。学校行事や地域のイベントがことごとく中止となり、子どもたちはさまざまな体験の機会を奪われました。あいご会関係者も行事を実施するか中止するか大いに悩み苦しまれていました。

そんな中でも何とか子どもたちに楽しさを味わってもらいたいと工夫を凝らして活動をすすめたところがありました。「コロナ禍におけるあいご会活動」を特集にしました。指導者からは「子どもたちの嬉しい顔を見ることができたので、やって良かった。」という安堵の声も聞かれました。

実践したところの活動を紹介していますので、ぜひ参考にしていただきたいと思います。そして、子どもたちにさまざまな経験をさせ、遊びの楽しさを味わわせてください。

最後に、あいご会の頭文字「あいご」を使った言葉を紹介します。

- あ** 遊び心をもって
- い** いろんな体験をすることで
- ご** ごはんがおいしいあいご会

あいご誌 第83号	
発行	令和4年3月
編集	鹿児島市あいご会連合会
	〒892-0816
住所	鹿児島市山下町5-9 (中央公民館公民館3F)
電話・FAX	099-226-6604
Email	aigo@po3.synapse.ne.jp
ホームページ	http://www5.synapse.ne.jp/aigokagosima/



|

市あいご会のシンボル旗



太陽を象徴した黄色い円の中に
純白の小円があり、
その下に人間の動脈、静脈を表す
赤と青の2本のすじを通したもの
(昭和47年 長田中3年 荒木淳一作)

市あいご会のシンボル旗



太陽を象徴した黄色い円の中に
純白の小円があり、
その下に人間の動脈、静脈を表す
赤と青の2本のすじを通したもの
(昭和47年 長田中3年 荒木淳一作)